

## ・ 人における暴露実態調査

## 目 次

( 1 )ダイオキシン類の暴露量の推計に使用したデータ……………	1
( 2 )算術平均値による個人総暴露量の推計 ……………	3
( 3 )幾何平均値による個人総暴露量の推計 ……………	6
( 4 )モンテカルロシミュレーションによる個人総暴露量の推計……………	7

(1) ダイオキシン類の暴露量の推計に使用したデータ

ダイオキシン類の暴露量の推計を行うため、平成15年度に実施されたダイオキシン類に係る調査結果を整理した。ただし食事については、平成12～14年度の調査結果を含めて整理した。本調査に用いたダイオキシン類調査を表1に示した。

また、収集したデータのうち暴露量の推計に用いるものは、基本的に一般環境と沿道の測定値のみとした(発生源周辺のデータは含まない)。その集計結果を媒体ごとに表2に示した。参考値として、発生源周辺のデータを含む場合の集計結果を表3に示した。

表1 ダイオキシン類の暴露量の推計に使用したデータ

公表日	調査主体(省庁)	調査主体(部局)	調査名/資料名/報道発表資料タイトル
平成13年12月5日	厚生労働省	医薬局食品保健部	平成12年度食品からのダイオキシン類一日摂取量調査等の調査結果について
平成15年1月16日	厚生労働省	医薬局食品保健部	平成13年度食品からのダイオキシン類一日摂取量調査等の調査結果について
平成16年3月16日	厚生労働省	医薬食品局食品安全部	平成14年度食品からのダイオキシン類一日摂取量調査等の調査結果について
平成16年9月27日	環境省	環境管理局(総務課ダイオキシン対策室・大気環境課・水環境部企画課・水環境部土壌環境課)	平成15年度ダイオキシン類に係る環境調査結果
平成16年12月27日	厚生労働省	医薬食品局食品安全部	平成15年度食品からのダイオキシン類一日摂取量調査等の調査結果について

表 2 集計結果 (一般環境・沿道)

媒体名称	単位	年度	データ数	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	算術平均値	幾何平均値	標準偏差
大気	pg-TEQ/m <sup>3</sup>	15	756	0.0056	0.033	0.053	0.080	0.50	0.064	0.051	0.048
土壌	pg-TEQ/g	15	2128	0	0.044	0.24	1.6	360	2.6	0.23	12
食事(トータルダイエツスタディ)	pg-TEQ/kg/day	15	33	0.58	0.90	1.15	1.56	3.05	1.33	1.22	0.59
食事(トータルダイエツスタディ)	pg-TEQ/kg/day	12, 13, 14, 15	97	0.57	1.01	1.40	1.80	3.40	1.45	1.34	0.60

注 1) 大気と土壌は、一般環境及び沿道における測定値 (発生源周辺を含まない)。食事 (食品からのダイオキシン類一日摂取量調査: トータルダイエツスタディ) では、調査時において一般環境、沿道、発生源周辺等の区分はされていない。

注 2) 25%点、75%点とは、データの集合を値の大きさによって 4 つに分割したときに、小さい値の方のデータ群がちょうど与えた百分率だけ存在するような境の値のこと。

注 3) 幾何平均値は 0 を除外して算出している。測定値が 0 のデータ数は、土壌の 4 データであった。

(参考) 表 3 集計結果 (一般環境・沿道・発生源周辺)

媒体名称	単位	年度	データ数	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	算術平均値	幾何平均値	標準偏差
大気	pg-TEQ/m <sup>3</sup>	15	986	0.0056	0.031	0.052	0.081	0.72	0.065	0.050	0.058
土壌	pg-TEQ/g	15	3059	0	0.061	0.44	2.8	1400	4.4	0.36	32
食事(トータルダイエツスタディ)	pg-TEQ/kg/day	15	33	0.58	0.90	1.15	1.56	3.05	1.33	1.22	0.59
食事(トータルダイエツスタディ)	pg-TEQ/kg/day	12, 13, 14, 15	97	0.57	1.01	1.40	1.80	3.40	1.45	1.34	0.60

注 1) 大気と土壌は、一般環境、沿道及び発生源周辺における測定値。ただし「発生源周辺」は、その可能性によって調査している地点も含むため、結果的に一般環境と同様な地点も含む。食事 (食品からのダイオキシン類一日摂取量調査: トータルダイエツスタディ) では、調査時において一般環境、沿道、発生源周辺等の区分はされていない。

注 2) 25%点、75%点とは、データの集合を値の大きさによって 4 つに分割したときに、小さい値の方のデータ群がちょうど与えた百分率だけ存在するような境の値のこと。

注 3) 幾何平均値は 0 を除外して算出している。測定値が 0 のデータ数は、土壌の 5 データであった。

(2) 算術平均値による個人総暴露量の推計

(1)に基づき、大気経由、土壌経由及び食事経由の平均暴露量から平均的な個人総暴露量を推計した。経路ごとの暴露量の推計方法は、以下のとおりである。

大気経由

1日当たりの呼吸量を 15 m<sup>3</sup>、体重を 50 kgと仮定して算出した。

大気経由の暴露量 (pg-TEQ/kg/day) (0.019)	=	大気中のダイオキシン類 濃度(pg-TEQ/m <sup>3</sup> ) (0.064)	×	1日当たりの呼吸量 (m <sup>3</sup> /day) (15)	÷	体重 (kg) (50)
--	---	--	---	--	---	--------------------

土壌経由

1日当たりの土壌摂食量を 100 mg、体重を 50 kg と仮定して算出した。

土壌経由の暴露量 (pg-TEQ/kg/day) (0.0052)	=	土壌中のダイオキシン類 濃度(pg-TEQ/g) (2.6)	×	1日当たりの土壌の 摂食量(g/day) (0.1)	÷	体重 (kg) (50)
---	---	--------------------------------------	---	----------------------------------	---	--------------------

食事経由

体重を 50 kg と仮定して算出した。

食事経由の暴露量 (pg-TEQ/kg/day) (1.33)
---------------------------------------

なお、大気、土壌中のダイオキシン類濃度は(1)で整理した算術平均値を、食事については「平成15年度食品からのダイオキシン類一日摂取量調査(厚生労働省)」の結果の算術平均値を用いた。

以上により、平成15年度調査に基づいた我が国における平均的な暴露量は 1.35 pg-TEQ/kg/day 程度であると考えられる。個人総暴露量について推計した結果(一般環境・沿道)を表4に、その内訳を図1に示す。

また、参考として、大気及び土壌の発生源周辺の濃度データも入れて推計した結果を表5に示した。

表6及び図2には、本調査における平成11年度からの個人総暴露量の推移を示した。

表 4 我が国における平均的な個人総暴露量の推計結果  
(一般環境・沿道)

(単位 pg-TEQ/kg/day)

大気	0.019
土壌	0.0052
食事	1.33
計	1.35

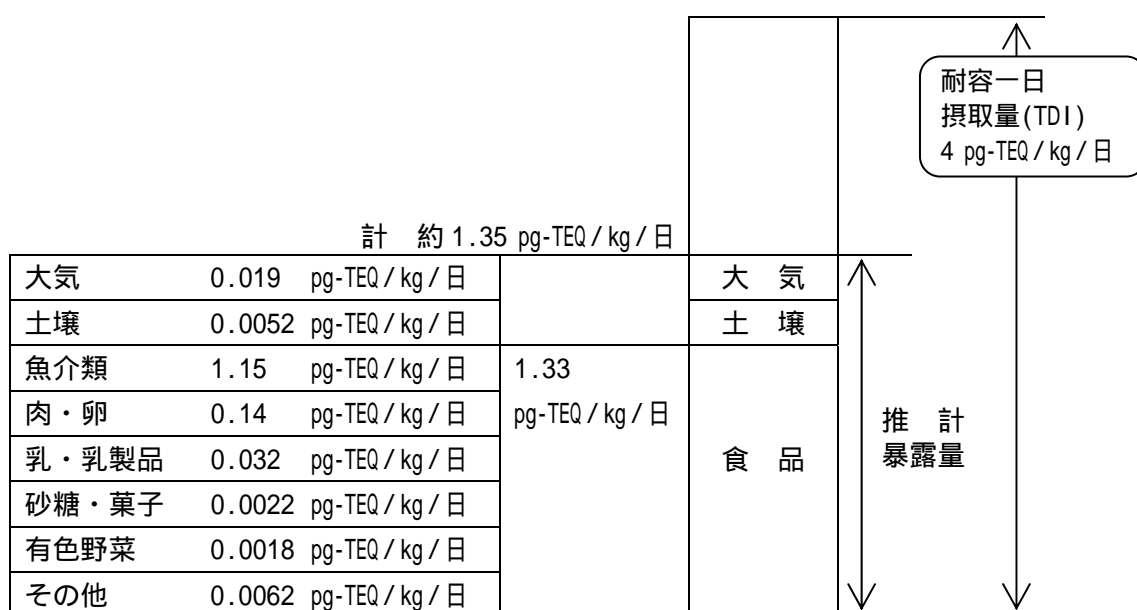


図 1 個人総暴露量の内訳 (平成 15 年度)

(参考) 表 5 我が国における平均的な個人総暴露量の推計結果  
(一般環境・沿道・発生源周辺)

(単位 pg-TEQ/kg/day)

大気	0.020
土壌	0.0088
食事	1.33
計	1.36

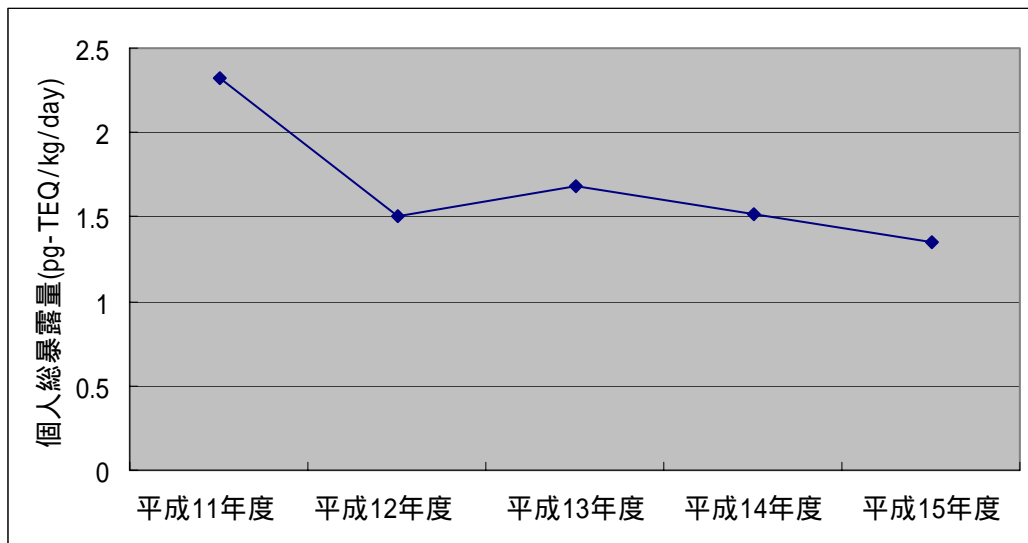
注) ただし「発生源周辺」は、その可能性によって調査している地点も含むため、結果的に一般環境と同様な地点も含む。

表 6 個人総暴露量の推計結果の推移

(単位 pg-TEQ/kg/day)

	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
大気	0.060	0.042	0.042	0.028	0.019
土壌	0.011	0.0092	0.0064	0.0068	0.0052
食事	2.25	1.45	1.63	1.49	1.33
計	2.32	1.50	1.68	1.52	1.35

注) 平成 11 年度、12 年度の推計値は、平成 13 年度以降の推計方法に合わせ、大気中ダイオキシン類濃度に用いるデータを「一般環境」及び「沿道」における測定値とし、土壌中ダイオキシン類濃度に用いるデータを「一般環境」における測定値として従来の報告書の推計値を算出し直したもの(ただし、平成 12 年度に関しては、算出し直した後も推計結果は同じとなった)。



平成 11 年度、12 年度の推計値は、平成 13 年度以降の推計方法に合わせ、大気中ダイオキシン類濃度に用いるデータを「一般環境」及び「沿道」における測定値とし、土壌中ダイオキシン類濃度に用いるデータを「一般環境」における測定値として従来の報告書の推計値を算出し直したもの(ただし、平成 12 年度に関しては、算出し直した後も推計結果は同じとなった)。

図 2 個人総暴露量の推計結果の推移

( 3 ) 幾何平均値による個人総暴露量の推計

一般に環境媒体中の汚染物質濃度の分布は対数正規分布を示すという指摘もあるため、統計的な推計値として、( 1 ) の環境媒体及び食事 ( 平成 15 年度トータルダイエツトスタディ ) の調査結果の幾何平均値 ( 大気 : 0.051 pg-TEQ/m<sup>3</sup>、土壌 : 0.23 pg-TEQ/g、食事 : 1.22 pg-TEQ/kg/day ) を用いて、個人総暴露量の推計を行った。推計は、( 2 ) に示した方法にこれらの幾何平均値をあてはめて実施した。

幾何平均値を用いた我が国における平均的な暴露量は、1.24 pg-TEQ/kg/day 程度であると考えられる。幾何平均値を用いて個人総暴露量について推計した結果を表 7 に示す。

表 7 幾何平均値を用いた個人総暴露量の推計結果  
( 単位 pg-TEQ/kg/day )

大気	0.015
土壌	0.00046
食事	1.22
計	1.24



#### (4) モンテカルロシミュレーションによる個人総暴露量の推計

ダイオキシン類の環境媒体や食事からの暴露量は不確実性を伴って値のばらつきを示すものであるため、これを確率論的に扱う手法の一つであるモンテカルロシミュレーションを用いて個人総暴露量の推計を行った。モンテカルロシミュレーションはいくつかの確率論的なインプット変数に対してアウトプット変数の分布の推計をすることを目的としたサンプリング実験である。すなわち、あるアウトプット変数の分布を決定するいくつかのインプット変数に対して個々に分布の型を仮定し、統計学的手法で乱数を発生させ、その乱数に従ってそれぞれのインプット変数の仮定分布からサンプリングを行う。このサンプリングをアウトプット変数の分布が確定するのに十分な回数行い、アウトプット変数をシミュレートするという手法である。

このモンテカルロシミュレーションにより、我が国のダイオキシン類個人総暴露量分布の推計を試みた。

#### モデルの設定

ダイオキシン類による個人総暴露量をシミュレートするに当たり、「大気中のダイオキシン類濃度」「土壌中のダイオキシン類濃度」および「食事経由の暴露量」の3つをインプット変数として、以下のモデルを設定した。

$$\text{個人総暴露量} = \quad + \quad +$$

～ の算出方法は、(2) に示したとおりである。

#### 実測データの分布の検討

各インプット変数の確率密度分布は、平成15年度の一般環境及び沿道の大気中及び土壌中ダイオキシン類濃度測定値、並びに平成12～15年度の食事(トータルダイエットスタディ)の調査結果(表2)に基づき、これらの実測データに統計学的にもっとも適合すると考えられた分布をあてはめることとし、最小値を0、最大値を発生源周辺も含めた実測データの最大値として適用した。なお、本推計では、用いたデータに対する統計学的な適合度のみに基づき、利用可能な確率密度関数を決定している。

表8に、各インプット変数に適用した仮定分布を示した。図3、図5、図7にそれぞれ適用した分布の型(線グラフ)と実測データのヒストグラムを示した。また、図4、図6、図8に各変数の仮定分布と実測値とのP-Pプロットを示した。

注 1) 確率密度分布：起こりうる事象とその実現確率を示す分布。例として正規分布など。

注 2) トータルダイエツトスタディについては、分布の検討に十分なデータ数を得るため、平成 12 年度～15 年度の調査結果を合わせて用いた。

表 8 インプット変数の分布の仮定

変数	食事経由暴露量 (pg-TEQ/kg/day)	大気中濃度 (pg-TEQ/m <sup>3</sup> )	土壤中濃度 (pg-TEQ/g)
適用した分布の型	対数正規分布	対数正規分布	対数正規分布
パラメータ	幾何平均 1.34 幾何標準偏差 1.49	幾何平均 0.05 幾何標準偏差 1.98	幾何平均 0.23 幾何標準偏差 13.29
分布の範囲	最小値 0 最大値 3.40	最小値 0 最大値 0.72	最小値 0 最大値 1,400

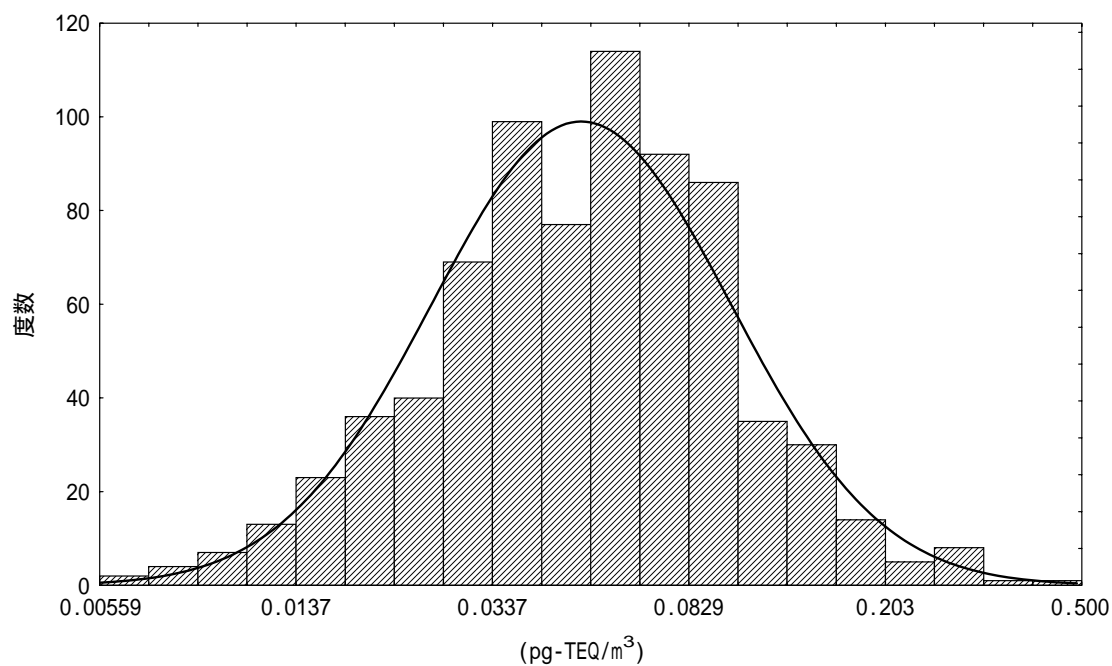


図3 大気中ダイオキシン類濃度頻度分布への対数正規分布のあてはめ

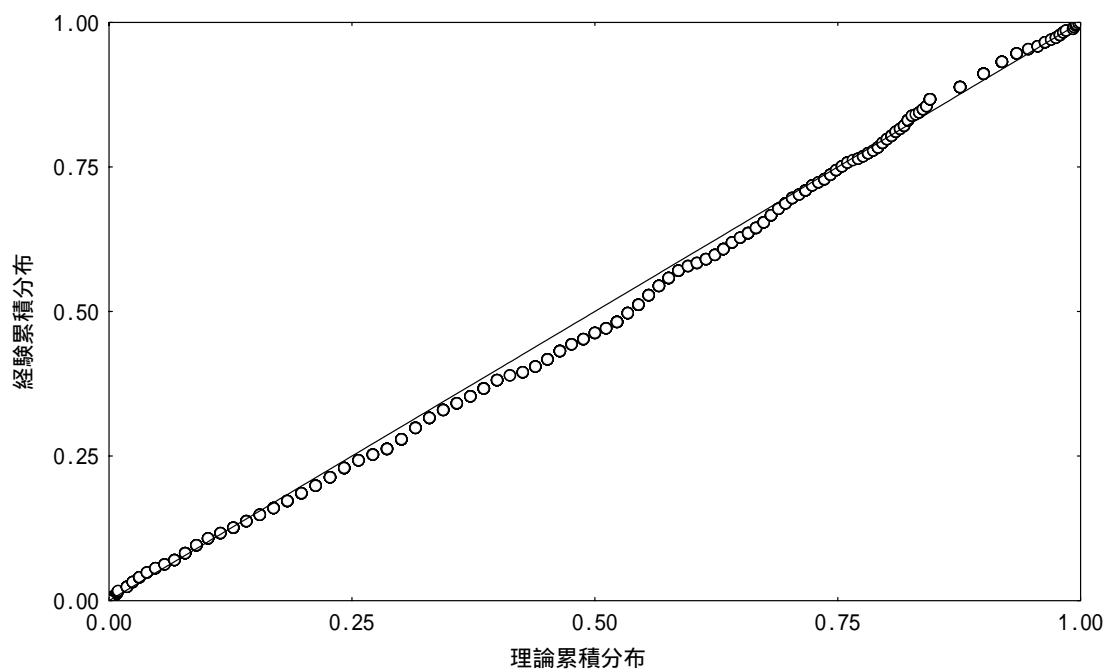


図4 大気中ダイオキシン類濃度仮定分布のP-Pプロット

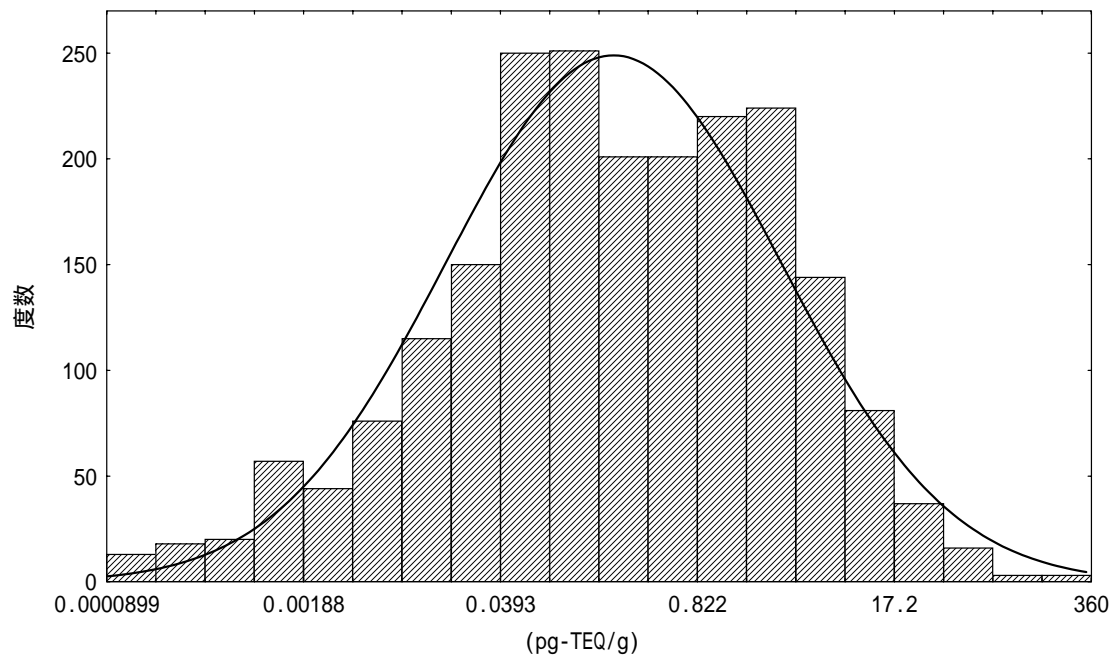


図5 土壤中ダイオキシン類濃度頻度分布への対数正規分布のあてはめ

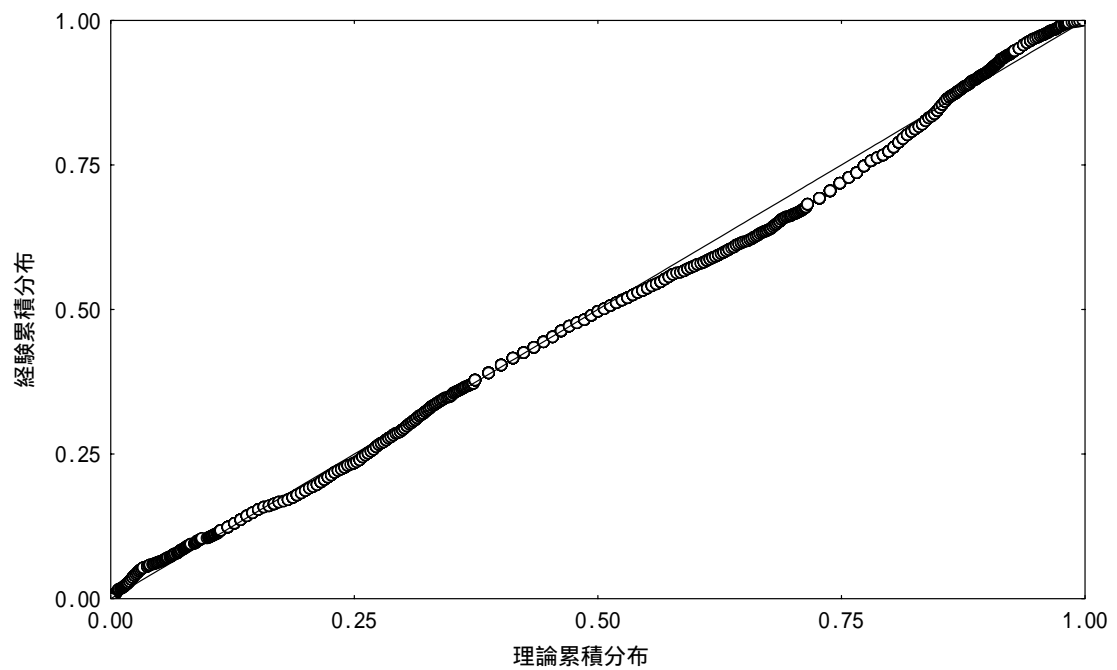


図6 土壤中ダイオキシン類濃度仮定分布のP-Pプロット

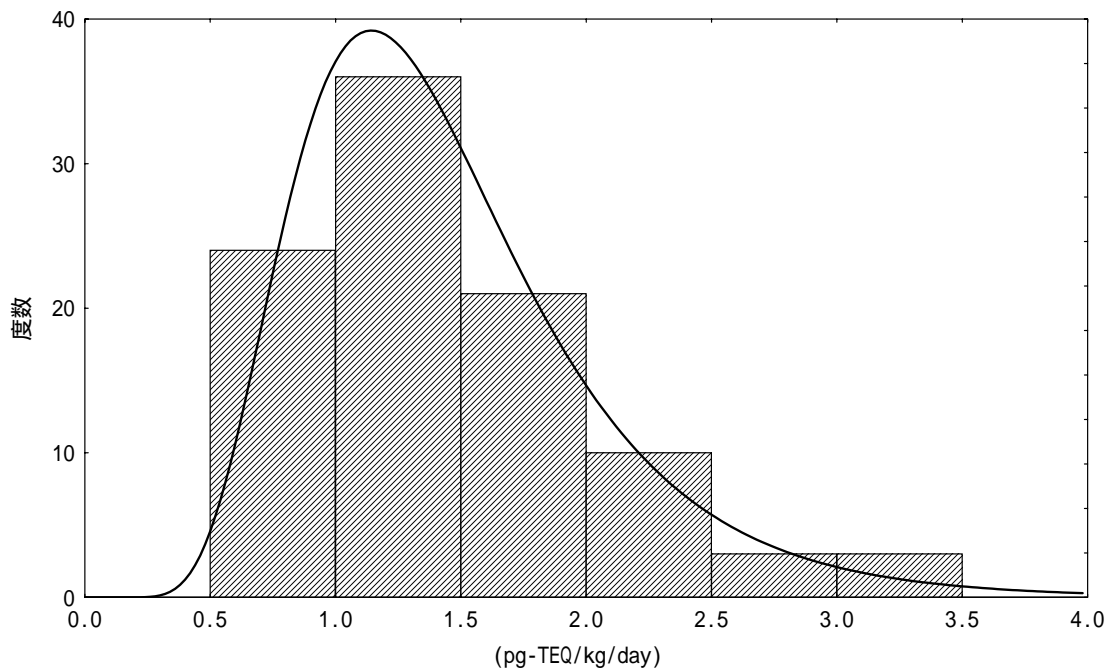


図7 トータルダイエツスタヂ頻度分布への対数正規分布のあてはめ

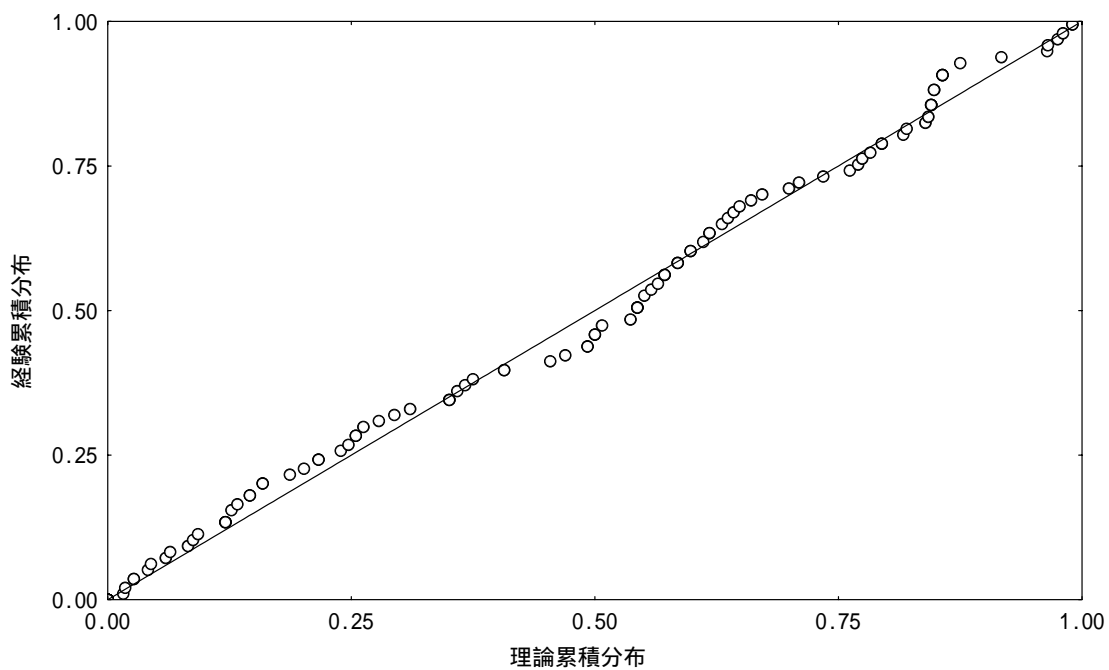


図8 トータルダイエツスタヂ仮定分布のP-Pプロット

## シミュレーションの結果

シミュレーション（試行回数 5000 回）の結果を表 9、表 10 及び図 9 に示した。また、各インプット変数の個人総暴露量への寄与率（順位相関による感度グラフ）を図 10 に示した。

表 9 モンテカルロシミュレーションによる  
個人総暴露量の推計結果（統計量）

（単位表示の無いもの：pg-TEQ/kg/day）

平均値	1.45
中央値	1.36
標準偏差	0.56
分散	0.31((pg-TEQ/kg/day) <sup>2</sup> )
歪度	0.79(単位なし)
尖度	3.44(単位なし)
変動係数	38(%)

表 10 モンテカルロシミュレーションによる  
個人総暴露量の推計結果（パーセント値）

（pg-TEQ/kg/day）

2.5 パーセント値	0.62
5.0 パーセント値	0.70
50 パーセント値	1.36
95 パーセント値	2.51
97.5 パーセント値	2.78

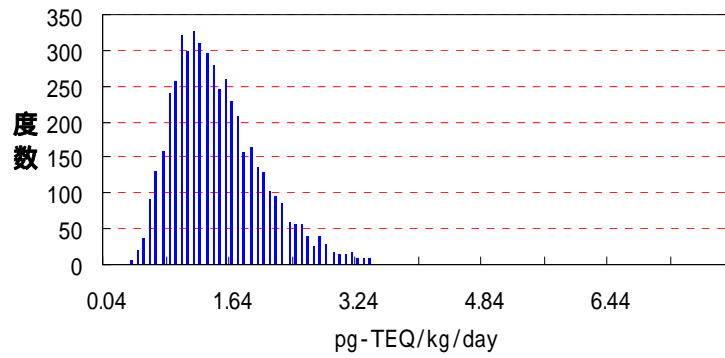


図9 個人総暴露量の度数分布

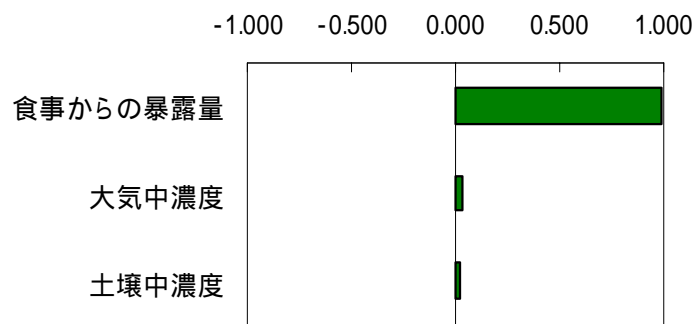


図10 ダイオキシン類総暴露量への各インプット変数の寄与率  
(順位相関による感度グラフ)